

学校関係者評価報告書

学校法人鶴嶺学園

神奈川社会福祉専門学校

学校関係者評価委員会

学校法人鶴嶺学園 神奈川社会福祉専門学校、学校関係者評価委員会は令和 6 年度自己点検評価報告書の結果に基づき学校関係者評価を令和 7 年 6 月 24 日（火）に実施したので下記のとおり報告いたします。

1. 学校関係者評価委員会 出席者

名 前	所 属
竹内 圭介	(学)鶴嶺学園 理事長
細田 俊哉	(学)鶴嶺学園 神奈川社会福祉専門学校 校長
境野 勝久	道塾 慶陽館 主宰
柳下 伸	NPO 法人 トータルライフサポートクラブ 会員
林 茂	(学)鶴嶺学園 本部長
菊池 恵理子	社会福祉法人 恵伸会

2. 実施方法、公表

学校関係者評価の実施に当たっては、年度末に実施した「自己点検・評価表」を学校関係者評価委員会の皆様にご覧いただき、自己点検評価の各項目に対するご意見と評価を取りまとめました。

評価結果は今後の本校における教育活動や学生指導の学校運営の改善に活かし、教育水準の向上に努めることとし、ホームページ等に公表いたします。

3. 基準項目ごとの学校関係者評価・意見

各評価項目別の質疑意見は以下の通り

評価項目（１）	教育理念・目標
・学園、学校の理念は変わらないものだが、時代に合わせて目標変更は必要 ・卒業後、即戦力になる人材の教育を行うこと（身だしなみやマナーも含む） ・ロゴマークの活用（パンフレット・HP）を定着させていく	

評価項目（２）	学校運営
・グループ法人に加えて、関連法人や施設との連携強化（社会福祉法人、NPO 法人） ・家庭経済状況が苦しい学生への配慮 ・教員の個別能力開発を積極的に行う必要がある（研修・セミナーへの参加） ・教員への面談を実施し評価のフィードバックを行う	

評価項目（３）	教育活動
・引き続いた傾向として学生の基礎学力低下（質の低下）が見られる ・退学者の防止への取り組みを継続 ・発達障害などを持つ学生への対応を、教員研修などを継続して行うように ・引き続きリモート授業を強化し、科目数を増加させる ・実習先の確保は継続課題（特に精神分野）	

評価項目（４）	学修成果・教育成果
・退学者、留年者防止への取り組みを継続 社会福祉科の学生の退学者減少の取り組みも進める ・介護福祉士の国家試験合格率は高水準を維持している ・医葬介の連携を学ぶためにライフエンディングパートナー資格の受講を継続する ・基礎学力の向上、学生へのフォローを重点的に	

評価項目（５）	学生支援
・経済的に困難な学生に対する支援(学費の減免)の取り組みの中、奨学金制度も含め、対応が必要 ・高等教育の就学支援制度への学園としての対応を引き続き行う ・家庭経済状況の苦しい学生への支援、国の制度の利用（アナウンスもしていく） ・日常生活面から学習意欲の減衰の早期発見に注意	

評価項目（６）	教育環境
・設備の改善を行う必要がある（空調は改善済だが、建物の老朽化は進んでいる） ・授業のDX化への取り組み（Wi-Fi環境は整備済のため、今後は活用していくことが課題）	

評価項目（７）	学生の受け入れ募集
少子化、業界の不人気もあり、高卒者の確保が難しい状況ではあるが、高専連携校への営業活動を強化し、業界の魅力や、就職の有利さを啓蒙していく。少ない機会を利用してガイダンス等では積極的に発信していくことが重要。また、18歳人口に頼らない既卒社会人の取り込みも急務の案件であるが、外部に販売する商材は開発中である。	

評価項目（８）	教育の内部質保証システム
・自己点検・評価後の改善に努める ・グループ企業で行っているリスクマネジメント・コンプライアンス委員会に引き続き参加	

評価項目（９）	財務
・学生数減少に伴う収入の減少は避けられないため、しごとカレッジでの収益が急務 ・学費未収の防止、退学者の防止に継続して努めるように ・18歳人口だけでなく、社会人取り込み対策もあわせて考えること	

評価項目（１０）	社会貢献・地域貢献
・今年度もコロナの影響で地域活動はなし	

総評

上記10項目に対し、委員による評価を行った。継続的に調査を行い、学校運営の質の向上を図っていく。

また、職業実践専門課程取得校として、学校の独自性、優位性を維持し、広くアピールして行くことも求めたい。18歳人口の減少により、収入の減少は避けられないが、しごとカレッジを活用し、収益性を高めていただきたい。ただ、学生に不利益が生じないよう、授業の質等は維持する必要がある。リモート授業や実習先の確保等、学生にとって十分な教育環境の提供ができるよう、配慮することを願う。

以上